

ディンプルアート

大人の塗り絵新感覚

の塗り絵感覚できれいな作品ができる。いつか自宅の窓に描けたらいいですね」と話した。

ディンプルは、ぎ波やえくほの意味、リサイクルの研究から生まれた絵の具を、ガラスなどに塗ると、ゴルフボールの表面のような細かい凹凸が生じ、ステンドグラス調の作品ができる。それが「ディンプルアート」。

ディンプルアート用の化学が開発、2003年に製品化した。絵の具は、自動車のフロントガラスを再資源化する際に分離される樹脂を再利用し、宇都宮大学院の木村隆夫教授（応用）が取り出した。石井さんは昨年4月に

下絵をたどり、線で囲んだ枠の中に着色用の具を載せるように塗る。原材の樹脂の作用で乾くと、細かい凹凸が表れる。

ほかのインストラクター教室では、石井さんの指導で受講生6人がスイセル、布にも描け、のりをのりなどの作品を制作。あらかじめ描かれた下絵に、それぞれの色彩感覚で鮮やかに色を塗った。性を引き出せる面白さも、2回目の受講という青葉区の主婦(66)は「大人と石井さんは話す町ロビーで先日開かれた

多趣多様

「透明感があって色が美しく、簡単なのに予想以上にすてきに作れる」とインストラクターの石井久美子さん(45)「仙台市太白区」。

石井さんのアドバイスを聞きながらディンプルアートを制作する受講生「一徹町ロビー」。



ここが肝心

気温や湿度凹凸変化

「一部分は一気に塗った方塗るといいそうだが、いい」と石井さん。絵の具の値段は一本3色を塗る際に小さな気40円(20g)。ディンプルアート仙台・石井く色が抜けるため、裁縫さんO22(28)4用のまち針で潰しながらO63(午後5時以降)。

絵の具の乾燥時間は、縁取り用が7、8時間、着色用は約30分。前日に縁取りを終え、翌日着色した方がいい。縁取り用と着色用の絵の具は混じらない。縁取り部分が堤防の役目を果たし、色ガラスをはめたように色を塗り分けられる。縁取り絵の具の上に金銀色の水性絵の具を重ね塗りする方法もある。着色用の絵の具同士は混じるため、複数の色でグラデーションを表現できる。「気温や湿度でディンプル模様の出方が変わるの、花びらなど同



石井さんの作品。精装やランプなどがあり、ステンドグラス調に仕上がる。